鉛蓄電池、雑品の輸出で対策

バーゼル法の見直し案まとまる

輸入手続きは簡素化へ

環境省／経産省

環境省と経済産業省は昨年12月26日、特定有害廃棄物等の輸出入に関する合同会議を都内で開催し、報告書案を取りまとめた。見直しの方向性として、環境汚染が生じるリスクが高い場合の輸出についてのバーゼル法の手続きや審査を強化する一方で、日本国内への輸入については、手続きの緩和を図る。

特定有害廃棄物等の輸出に関しては、使用済み鉛蓄電池や雑品スクラップの適正な管理のための対策を講じる。使用済み鉛蓄電池のOECD加盟国向け輸出については、韓国で不適正な処理があったことなどを踏まえ、輸出先の処理施設で不適正処理が疑われる場合に審査することができるようにする。すでに輸出承認された案件についても、バーゼル条約上の権限のある当局が必要な情報収集を行うことで迅速に対応できるようにする。また、輸出先での環境上適正な管理の確保のための方法について、環境大臣の審査基準を明確化する。

雑品スクラップに関しては、廃電子基板や廃電池などの規制対象になり得る物と鉄スクラップやプラスチック片などの規制対象外の物との混合物についての該当性を明確化し、短時間で該非判断を行えるようにするため、分かりやすい基準を整備する。

また、EUの動向を踏まえ、OECD加盟国向けのアンバーリスト対象物の輸出手続きを簡素化することや、廃棄物処理法とバーゼル法の二重手続きを改善することも盛り込んだ。

日本への輸入に関しては、環境汚染のリスクが低い特定有害廃棄物等の輸入承認手続きを簡素化し、国内の処理施設の競争力を高める。廃電子基板などのグリーンリスト対象物は事前の通告や同意手続きを不要とする。アンバーリスト対象物の輸入では、バーゼル法に基づく外為法の輸入承認を不要とする。

第三極向けの不振顕著

鉄スクラップ貿易統計　国内需給引き締まりで

2016年11月期の鉄スクラップ輸出量は、62万5816トンだった。前月から9万6239トン増（118・2%）で、前年同月比は4万1586トン増（107・1%）。先月に引き続き国内需給がタイトで、海外向けは絞られた。そうしたなかで、古くから輸出ルートを持つ韓中が量を維持した一方、ベトナムなどの最近台頭してきた第三極向けが振るわない結果となった。

金額ベースでは、195億6532万円を計上。前月比26億2676万円増（115・5%）、前年同月比26億5990万円減（115・7%）となった。1トン当たりの平均単価は3万1264円で、前月から721円安（97・7%）、前年から2328円高（108%）。付加価値が高いスクラップが少なかったため、統計上はやや安値に触れた。もっとも、鉄鉱石高に伴う鋼材値上げを受けて相場観としては上向いている。

輸出先別の統計では、第三極向けの減少が目立つ。まず韓国向けは26万1721トンを積み、全体の42%を占めた。前月比4556トン増（101・8%）、前年同月比9万7634トン増（160%）。平均単価は2万4255円で、前月から647円安（97・4%）とわずかに値を上げた。

中国向けは18万2501トンを計上して、全体の29%を占め、シェアを2位を維持した。前月比3万4749トン増（123・5%）、前年同月比では5万4762トン増（142・9%）。平均単価は5万3778円で、前月から1272円安（97・5%）だった。

ベトナム向けは9万3355トン。前月比1万9877トン減（82・4%）、前年同月比6万1162トン減（60・4%）と減少幅が大きく、全体の12%となるシェア3位にとどまった。平均単価は2万1711円で、前月比58円安（99・7%）とほぼ横ばい。

現在の国内市況は鉄鉱石価格の上昇などに伴う世界的なスクラップ高の影響で堅調に推移。もっとも、荷動きは鈍く様子見気配が強く出ている。

2016年11月の鉄スクラップ輸出の数量と金額（貿易統計より）

品名	当月			累計		
	1t当たり	数量	金額	1t当たり	数量	金額
合計	3万1264円	62万5816t	195億6532万円	2万8467円	786万780t	2237億7455万円
鋳鉄くず	5万4682円	22t	120万円	4万511円	850t	3445万円
ステンレス鋼くず	6万9434円	1万4284t	9億9177万円	7万5276円	13万8267t	104億812万円
合金鋼くず	8万3889円	1674t	1億4042万円	6万5417円	2万8220t	18億4608万円
すずめっきくず	2万500円	306t	628万円	2万829円	2020t	4208万円
切削打ち抜きくず	2万4307円	9万7958t	23億8108万円	2万2399円	114万3649t	256億1636万円
ヘビーくず	2万2497円	27万7194t	62億3600万円	2万1834円	366万8371t	800億9451万円
シュレッダーくず	2万2767円	3万4216t	7億7901万円	2万2114円	49万2592t	108億9321万円
その他くず	4万5091円	20万135t	90億2429万円	3万9726円	238万6747t	948億1538万円
再溶解用インゴット	20万864円	26t	525万円	38万103円	64t	2437万円

2016年11月の鉄スクラップ輸出先上位5カ国統計（貿易統計より）

国名	当月			累計		
	1t当たり	数量	金額	1t当たり	数量	金額
大韓民国	2万4255円	26万1721t	63億4811万円	2万3773円	312万6251t	743億2174万円
中華人民共和国	5万378円	18万2501t	91億9399万円	5万198円	167万1737t	839億1729万円
ベトナム	2万1711円	9万3355t	20億2679万円	2万615円	181万6091t	374億3811万円
台湾	2万1619円	7万3701t	15億9333万円	2万1888円	81万1858t	177億8031万円
タイ	2万4298円	7504t	1億8234万円	2万6602円	5万4409t	14億4738万円

竹下産業

PCで機密処理発注・報告

重要書類と電子記録媒体　ネットで簡単、安全も徹底

専用ボックスには重要書類と電子記録媒体の両方を投入できる

竹下産業（東京・足立、竹下敏史社長、☎03・3887・1761）は新たに、専用バーコードで機密書類の回収から処理までのトレーサビリティを管理・報告するサービス「T－CUBE」を開始した。専用ボックスには機密書類だけでなく、CDやUSBメモリなどの電子記録媒体を投入できる窓口も設置している。竹下社長は、「パソコンからウェブサイトでエントリーしてもらうだけで、簡単に依頼ができ、機密書類を預かる際の受託書や証明書、請求書もすべてメールで配信される。ペーパーレスにこだわったサービスであり、多くの方に利用してもらいたい」と述べている。

新サービス「T－CUBE」には、施錠可能な専用ボックスで輸送時の情報漏洩リスクをゼロにした「Guard」、機密書類を詰めた段ボール一箱から即日処理する「Premium」、毎月段ボール5箱以上を排出する大口顧客にお得な「Regular」、一般向けの廉価な「Basic」、機密性のない書類向けの「Normal」、レターパックやクリックポストを活用し、郵送費の負担だけで気軽に利用できる個人向けの無料サービス「Post」という六つのプランがある。

顧客は、竹下産業のウェブサイトにアクセスし、利用したいサービスを選んでエントリーするだけで発注できる。料金は、専用ボックスを利用するサービスが「毎月定額制のボックス利用費＋輸送費＋投入量に基づく処分費」、バーコード付き専用コンテナを通い箱として活用するサービスなどいずれも明朗な料金システムになっている。破砕による抹消処理が完了した後、担当者のパソコンに処理完了報告のメールが配信される。新システムについては、外販も行う。

竹下産業は、古紙回収業や産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業などを手掛ける。

近年、機密情報抹消サービスに特化しており、昨年には新たに産業廃棄物処分業の許可を取得して、CDやDVD、USB、HDD、SSDを粉砕し、情報が復元できないレベルにまで粉砕する設備を導入した。粉砕物はリサイクルにまわす。自治体や金融機関などの大手企業からの処理依頼も増えている。

環境省

循環型社会形成に向け

公開シンポを開催

環境省は昨年12月15～16日、大阪市内の会場で循環型社会形成推進研究発表会を開催した。2日間の日程で、公開シンポジウムと研究発表を実施。環境省の環境研究総合推進費（資源循環領域）で実施された各研究事業の成果を公開した。

同補助金事業は、研究開発による環境政策の推進を目的に、環境省が必要とするテーマに対して産学官民の研究者から提案を募り、研究費用を拠出するもの。その成果を広く一般に公開するべく、発表会を開催している。15日に行われたシンポジウムは、「レアメタル等の有用金属資源の再資源化」をテーマに、四つの講演とパネルディスカッションを行った。冒頭、環境省担当者があいさつに立ち、同研究事業について説明した。

講演では、まず同事業の選考委員を勤める大阪大学・藤田正憲氏が登壇。特別講演として「廃棄物再資源化技術の動向〝レアメタル等有用金属からバイオマスまで〟」と題し、現在の環境政策をもとに、今後の研究動向や廃棄物再資源化事例を説明した。藤田氏が特に強調したのは、社会システムの研究だ。単に再資源化技術を開発するだけでなく、社会への実装を意識した研究が重要になってくると指摘。併せて、今回のテーマである金属リサイクルをはじめ、廃プラ、バイオマスなどの先進事例を紹介した。

会場のようす

続いて、研究事業の採択を受けた研究が紹介された。はじめに九州大学・後藤雅宏氏が「レアメタル高度分離のための新規抽出剤の開発と高効率リサイクルプロセスの構築」について紹介。アミノ酸を利用したコスト性に優れた抽出剤の開発と、その効果について発表した。

次に、北九州市立大学・吉塚和治氏が「廃ネオジム磁石からのレアアースのリサイクルシステムの開発」について紹介。北九州エコタウンでのローカルリサイクルを想定した、市中スクラップの再資源化技術・システムを解説した。

最後に、北海道立総合研究機構・富田恵一氏が「ホタテガイ中腸腺を用いた廃電子基板からの貴金属回収技術の開発」を発表。北海道で大量廃棄されるホタテガイの中腸腺がカドミウムなどを濃縮することに着目し、貴金属を選択的に回収可能な吸着剤の開発について説明した。

工場系・使用済み製品・金属類

誠実に――
―産業廃棄物焼却処理 250T/D―
HIRST 栃木ハイトラスト株式会社
〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘18-3 ☎0285（83）3966

回収困難物を再資源化

サンクト／サンメンテナンス工機　タングステンスラッジ対象に

レアメタル商社のサンクト（本社・東京、今川信雄社長、☎03・5624・1688）とサンメンテナンス工機（SmK、本社・名古屋市、深井重貴社長、☎052・624・8481）は、タングステンスラッジの再資源化事業で業務提携を開始した。SmKが提供する精密ろ過技術で超硬工具などの製造工程で発生するスラッジを高効率に回収し、サンクトが再生原料としてリサイクルする回収プロセスになっている。

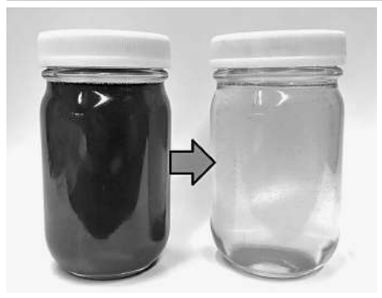
一般的に、超硬工具などの研削加工時には、クーラント液を簡易ろ過しながら循環使用する。一方、加工時に発生したスラッジは簡易ろ過では回収しきれず、加工機に付着して作業の妨げになるなどの問題があった。さらに、粒径が小さいタングステンスラッジのろ過には珪藻土（シリコン）やパルプが用いられるが、シリコンを多量に含む場合、リサイクルが困難になり、産業廃棄物などとして処理するケースも多かった。

これに対して、SmKの技術で回収されたスラッジは良質でリサイクルしやすい。

今回のタングステンスラッジの再資源化事業には、▽シリコンを含まないスラッジの回収が可能▽直径30センチメートルのフィルターから20～30キログラムのスラッジを回収▽使用済みフィルターから回収したスラッジはサンクトが受入処理する――などの特徴がある。

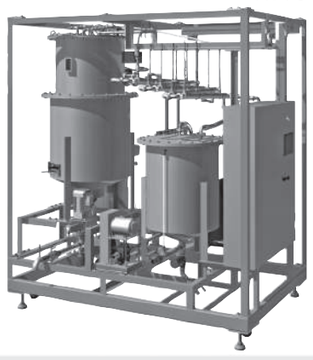
サンクトは静岡県のグループ工場などでタングステンスラッジの処理を手掛け、年間2400トンの能力を持っている。回収したタングステンを焙焼濃縮した中間原料や酸化物、炭化物など顧客が希望する状態に処理加工して返却する他、買い取りにも応じている。

タングステン系超硬工具だけでなく、高速度鋼などにも適用できる。サンクトは「両社の強みを生かして事業を拡大するために業務提携した」としている。



ろ過前(左)とろ過後

SmKの精密ろ過装置

減圧蒸留方式
高純度バイオディーゼル燃料製造装置
BDF VD200
減圧蒸留方式による無洗浄方式で、
排水を出さずに高純度の
バイオディーゼル燃料を精製できます。
CO2 ゼロカウント
廃食用油 リサイクル

Q「BDF」って何?
A 廃食用油の植物原料より製造されるバイオディーゼル燃料のことです。英語のBio Diesel Fuel の頭文字をとってBDFと略称しています。このBDFを軽油の代替燃料として使用する事は、地球温暖化の主要因である二酸化炭素の増減にカウントされません。これを「カーボンニュートラル」と呼びます。
フロン処理事業で地球環境保全を考えてまいりました当社は
「BDF製造・B5混合燃料製造システム」を通じて
さらなる地球温暖化防止に貢献したいと考えております。
フロンのことも、BDFのことも。
地球のために―― 環境総研です。
株式会社 環境総研
〒363-0027 埼玉県桶川市川田谷1649-1 tel.048-789-2302 fax.048-789-2303
e-mail info@kankyosoken.co.jp http://www.kankyosoken.co.jp

営業案内
○産業廃棄物収集運搬 及び 中間処理業　○一般廃棄物処理業　○一般貨物自動車運送事業
○グリストラップ・各種ピルピットの清掃業務　○貯水槽・受水槽等清掃業務
○とび土木工事業・解体工事全般　○重量物移設工事　○リサイクル原料取扱　○機密書類取扱
「廃」から「再」への挑戦
HASEGAWA 株式会社 ハセガワ
HASEGAWA CO.,LTD.
お問合せは TEL047-458-8850
URL http://www.hasegawa-eco.com/
本社 〒275-0011 千葉県習志野市大久保1-6-2 TEL 047-473-1638 FAX 047-472-5548
千葉支店 〒262-0043 千葉市花見川区天戸町649-9 TEL 043-250-2277 FAX 043-286-5418
八千代工場 〒276-0046 八千代市大和田新田710 TEL 047-458-8850 FAX 047-407-3097